

ひきこもり等に関する実態調査報告書

平成 26 年 3 月 島根県健康福祉部

1 調査目的

県では、保健所などでの支援に加え、「子ども・若者育成支援推進法」の施行を受け、住民に身近な市町村で困難を有する子ども・若者やそのご家族が相談や必要な支援を受けられるよう「子ども・若者総合相談窓口」の設置促進を進めているところである。一方で、中高年のひきこもりなど、ひきこもり者の高齢化も問題となってきた。

こうした状況を踏まえ、本調査は、島根県民生児童委員協議会及び各地区民生児童委員協議会のご協力を得て、県内で活動されている民生委員・児童委員の方を対象にアンケート調査を実施することにより、ひきこもり等についての実態を把握するとともに、今後の施策展開の基礎資料とすることを目的として実施した。

2 調査対象

この調査では、次に該当するような方を「ひきこもりの状態の方等」とした。

- (1) おおむね 15 歳から 40 歳までで、次のいずれかに該当する方
 - ① 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6 ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方
 - ② 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物などで外出することがある方
 - (2) おおむね 40 歳以上の方で、上記と同様の状態にある方
 - (3) 上記に準じ、無業者や非行など、民生委員・児童委員の皆様からみて心配な方、また、家族等から支援などについて相談があった方
- ※ ただし、重度の障がい、疾病、高齢等で外出を希望してもできない方を除く。

3 調査基準

平成 25 年 11 月現在

4 調査方法

県内の担当地区を持つ民生委員・児童委員に対するアンケート調査

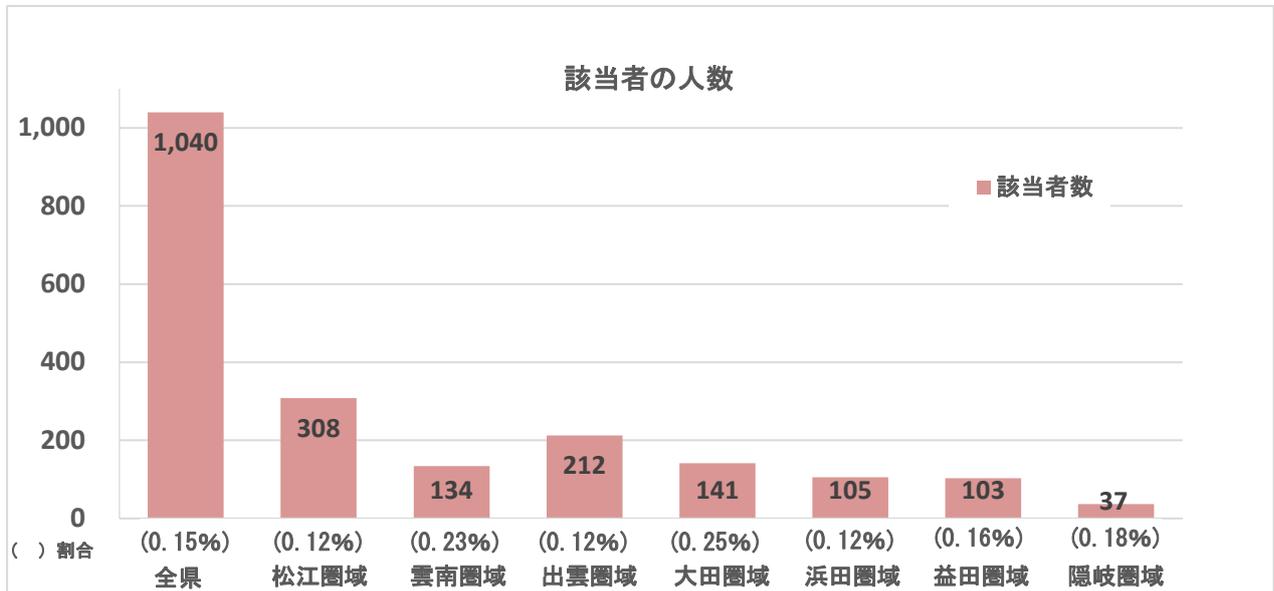
5 回収結果（回収率）

民生委員・児童委員 1,632 人（81.2%）

6 調査結果

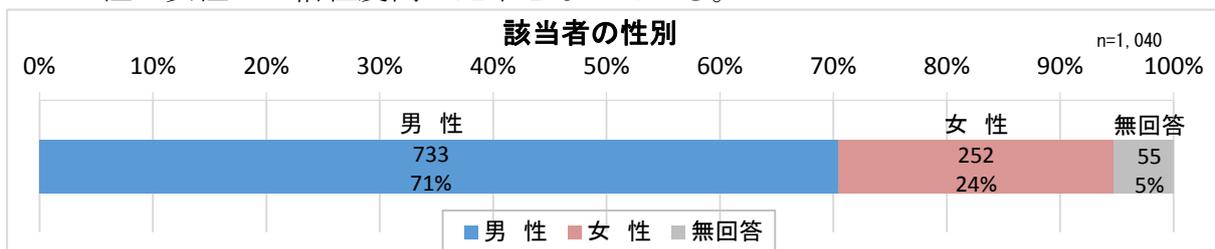
(1) 該当者の人数

- 調査により把握できた該当者（全年齢）の総数は、1,040人となっている。
- 人口当たりの該当者の割合は、0.15%となっている。



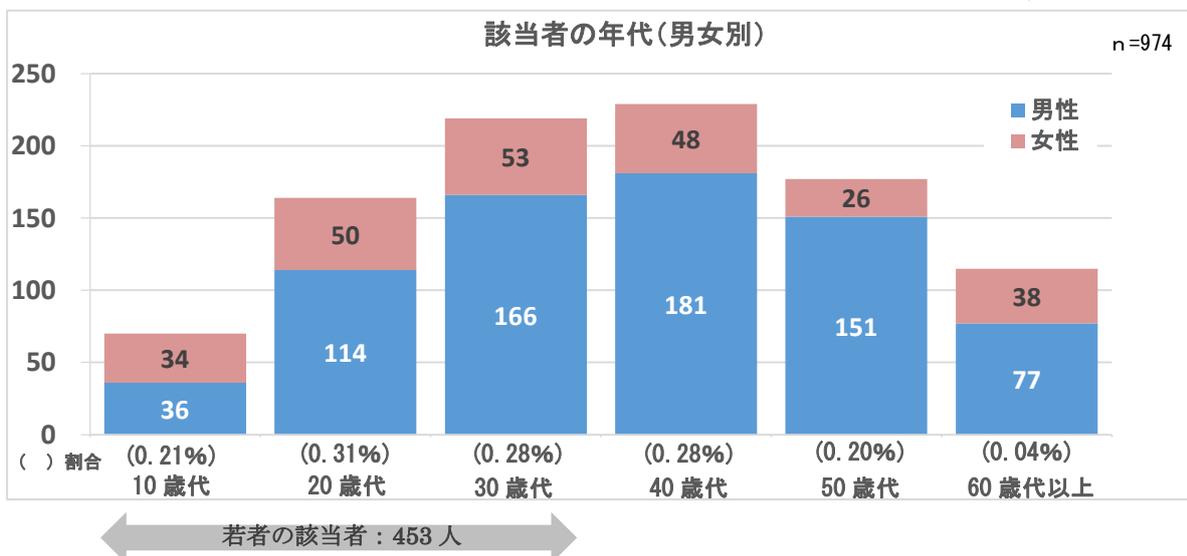
(2) 該当者の性別

- 該当者の性別は、男性が71%、女性が24%、無回答が5%となっており、男性が女性の3倍程度高い比率となっている。



(3) 該当者の年代別性別状況

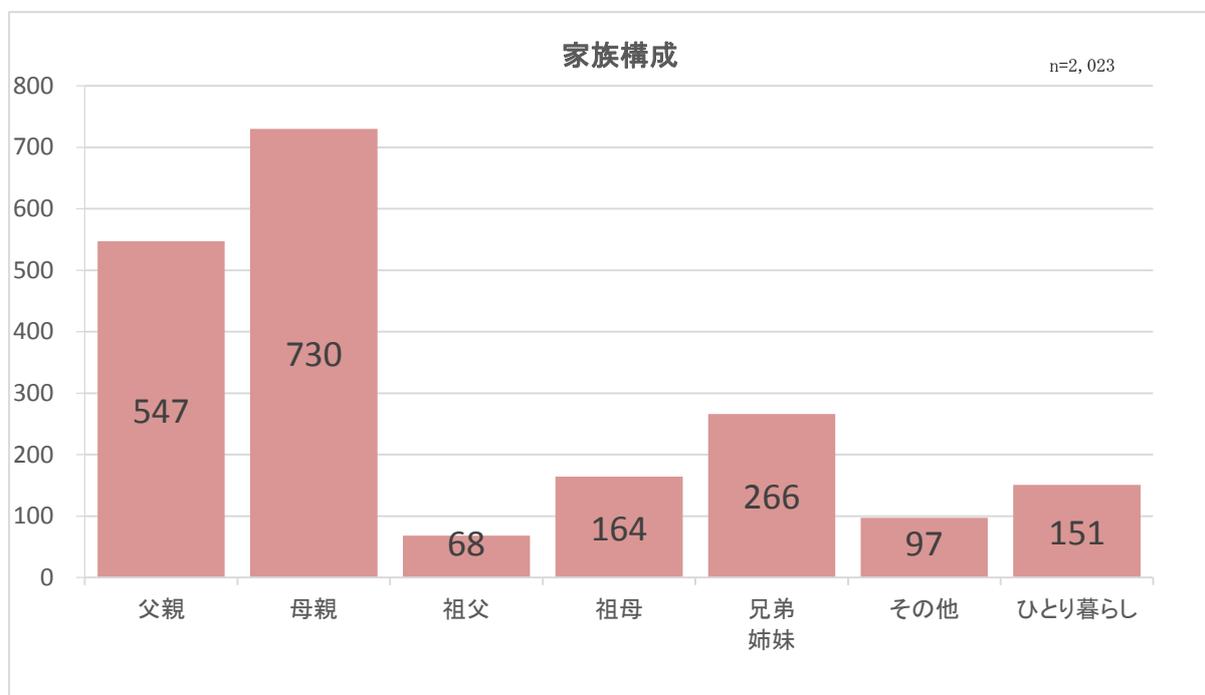
- 年代別では、40歳代が最も多い
- 年代別に見ると、15歳から39歳までの「若者」が453人、47%を占めている。
- 人口当たりの該当者の割合を見ると、20代から40代が0.3%程度と比較的高くなっている。
- 男女別では、40代、50代で男性の割合が80%と高くなっている。



(4) 家族構成（複数回答可）

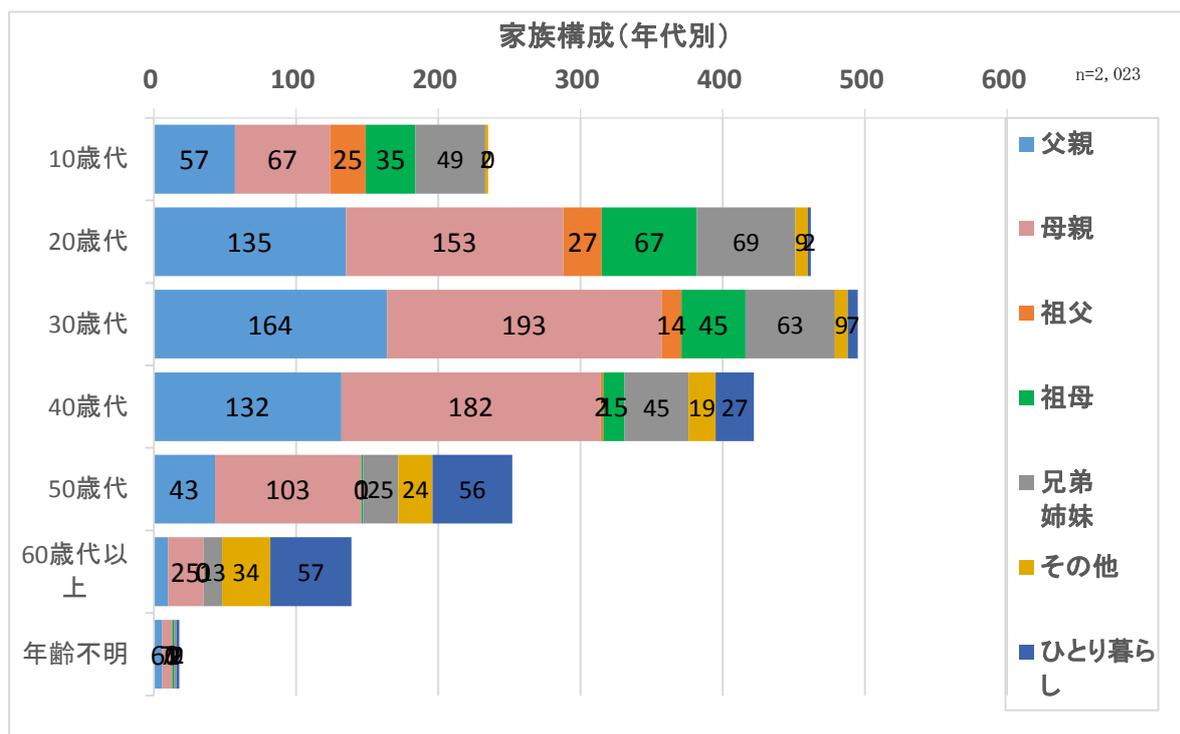
①全体

- 家族と同居している例がほとんどであり、「母」「父」「兄弟」「祖母」「祖父」の順で多い状況であった。
- 一方、「ひとり暮らし」は15%であった。



②年代別

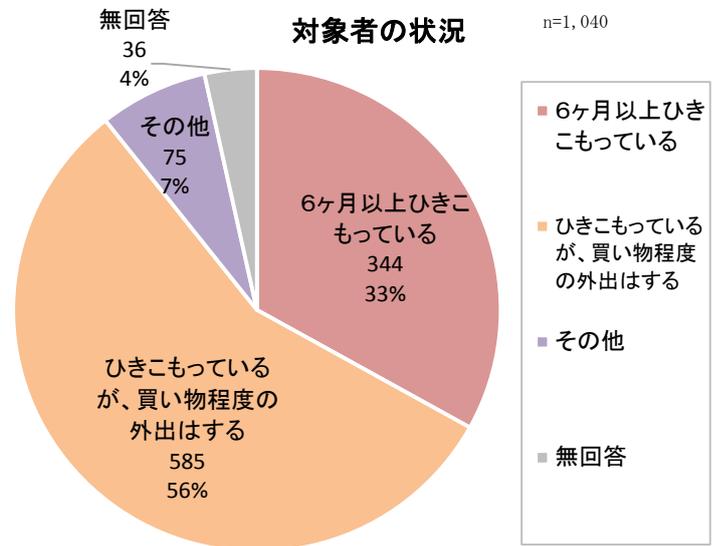
- 10歳代から40歳代は、家族と同居している数が多く、「母」「父」「兄弟」「祖母」「祖父」の順となっている。
- 「ひとり暮らし」の数は、50～60歳代で多い。



(5) 対象者の状況

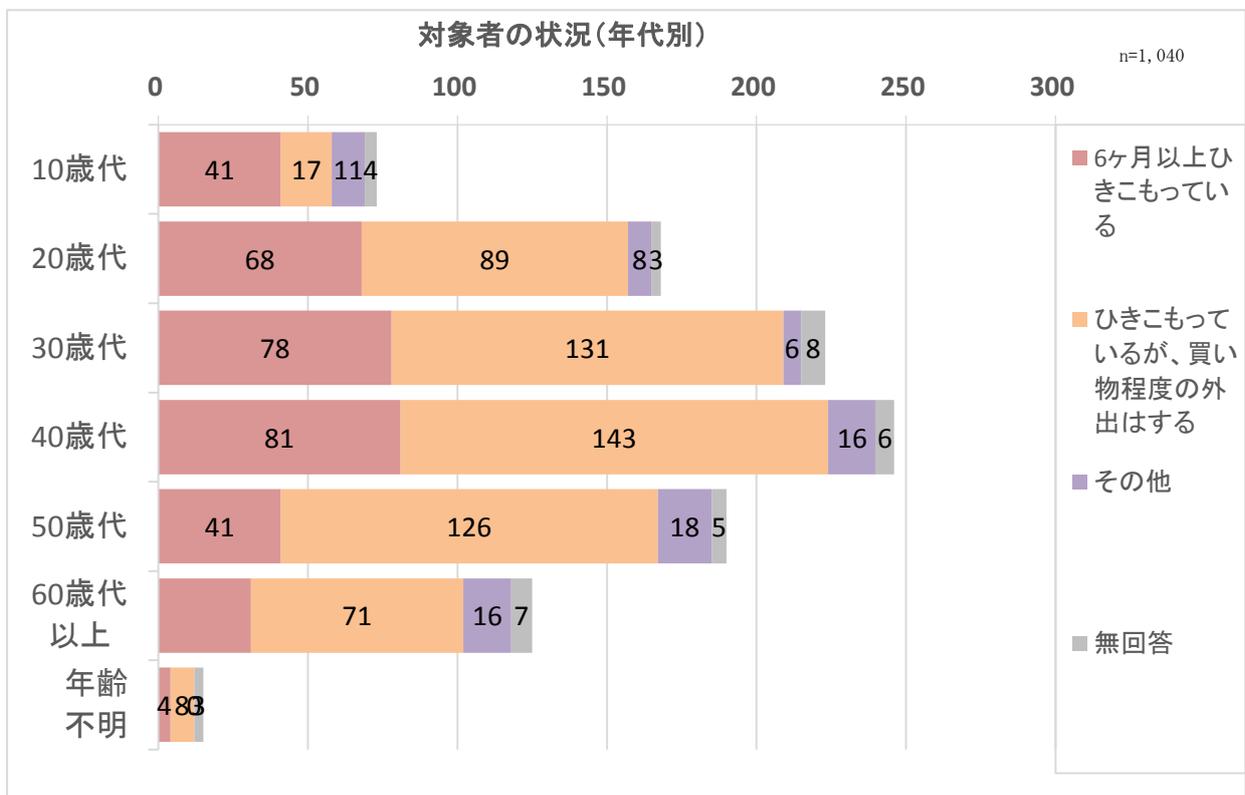
①全体

- 「ひきこもってはいるが、買い物程度の外出はする」が半数以上であった。
- 「6ヶ月以上ひきこもっている」も1/3程度であった。



②年代別

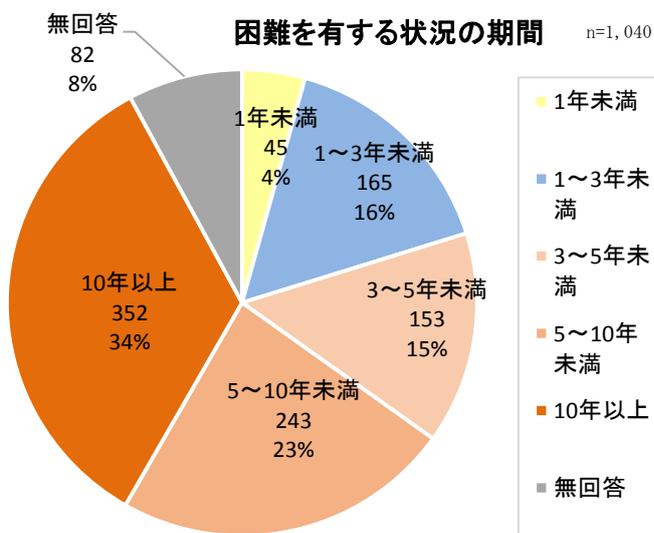
- 10歳代では、「6か月以上ひきこもっている」の数が多いが、20歳代からは「ひきこもっているが、買い物程度の外出はする」の数が多くなっている。



(6) 困難を有する状況の期間

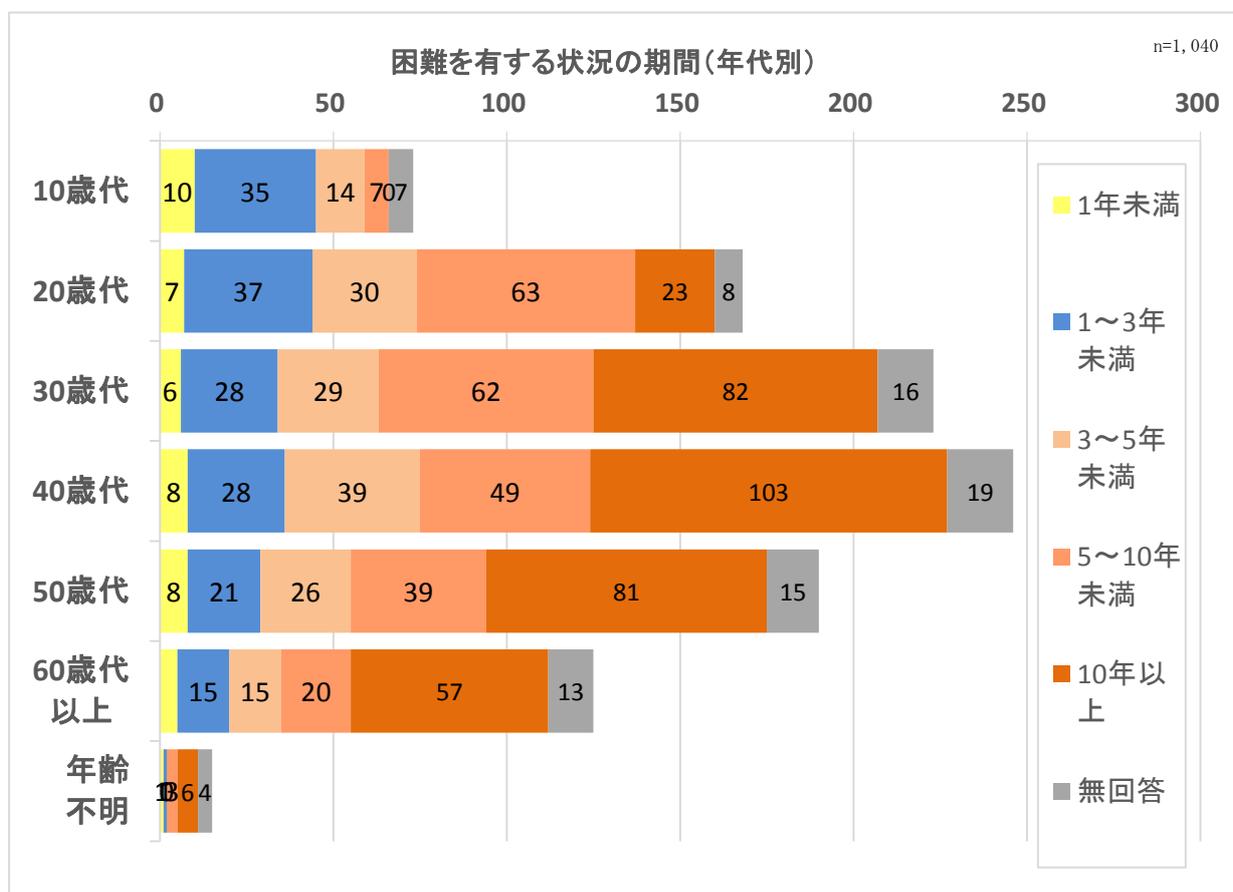
①全体

○ひきこもっている期間が「3年以上」に及ぶ対象者が72%、「5年以上」が半数を超える。



②年代別

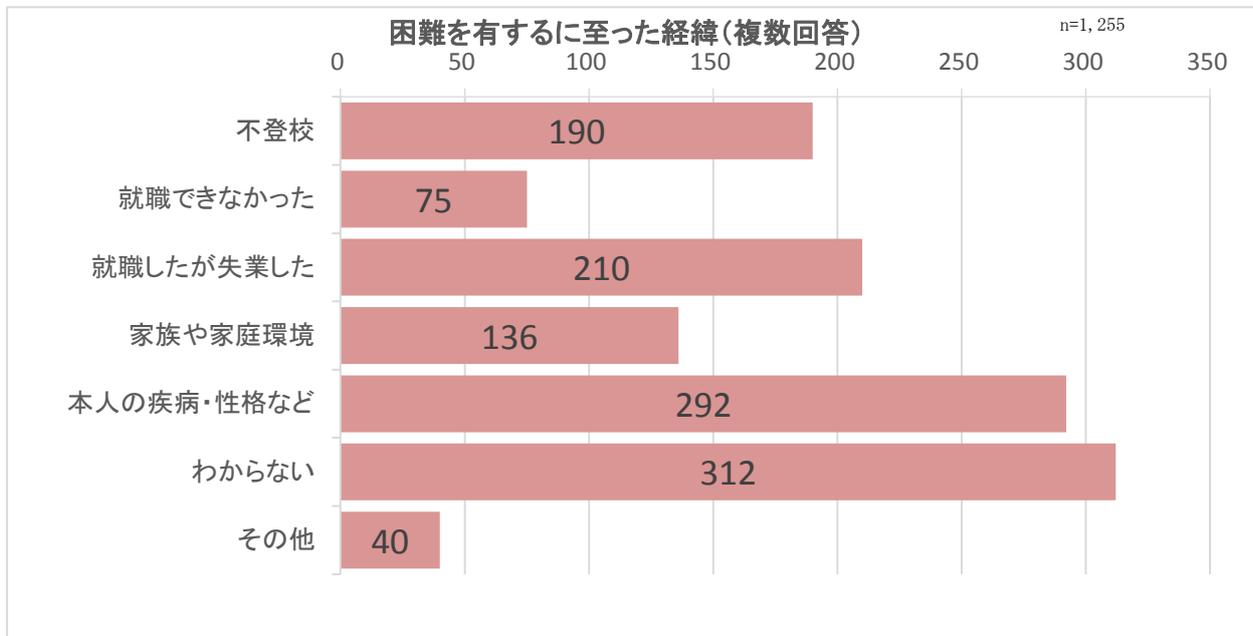
○20歳代では、「5年以上10年未満」の数が多く、30歳代からは、「10年以上」の数が多くなっている。年齢の高い層で長期化が見られ、なかなか解決できていない状況がうかがえる。



(7) 困難を有するに至った経緯（複数回答可）

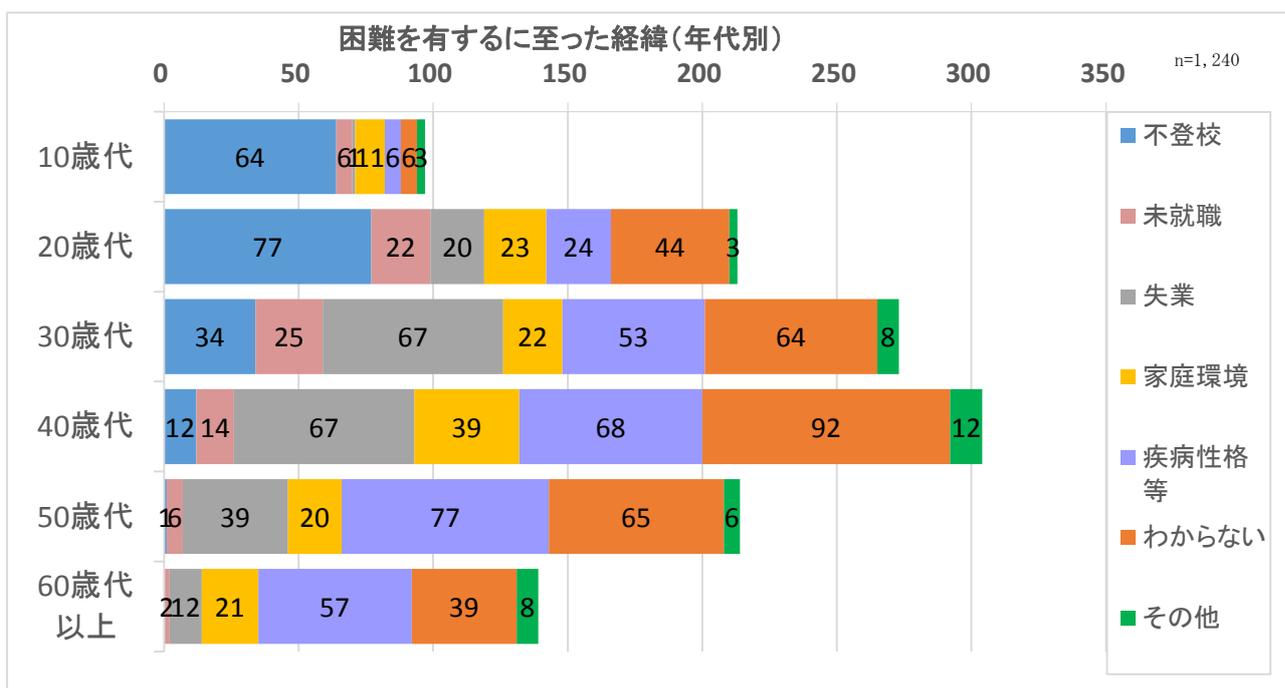
①全体

- 「わからない」（312件）がもっとも多く、全体の24%を占めており、民生・児童委員の把握の困難さを示していると考えられる。
- 経緯がわかるものの中では、「疾病・性格等」「失業した」「不登校」の順に多い。



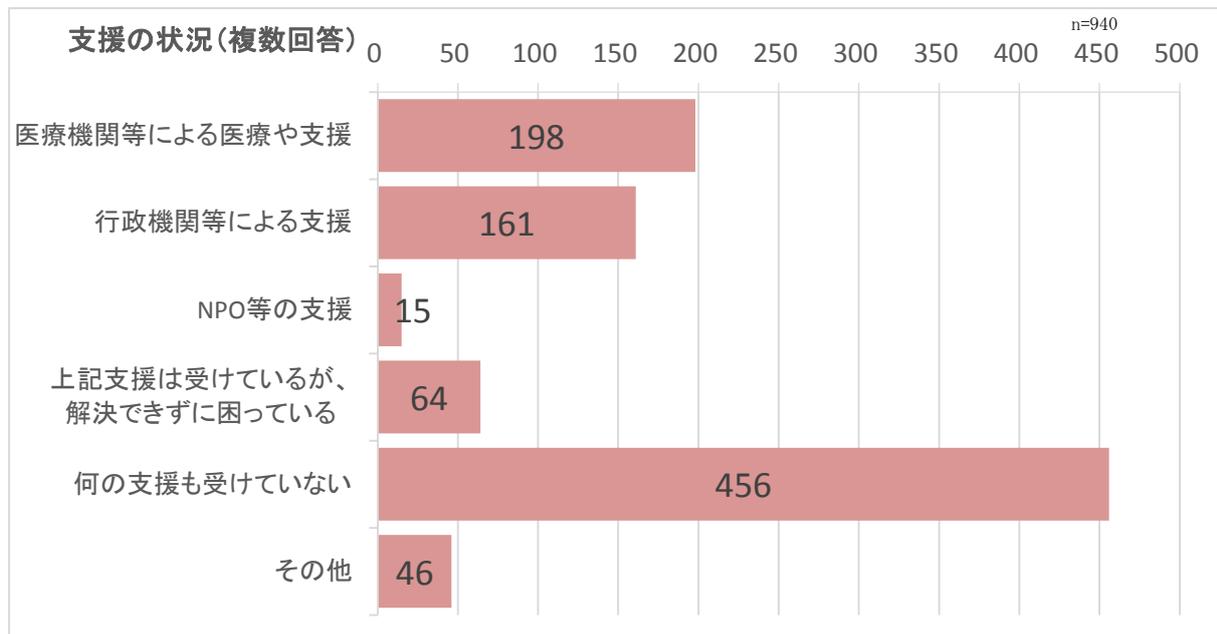
②年代別

- 10歳代、20歳代では「不登校」を経緯とするものが多く、30歳代40歳代では、「失業」を経緯とするものが多い。
- 30歳代以降は、「疾病・性格等」の割合が増えている。
- 40歳代以降は、経緯が「わからない」ものが各年代で3割を占めている。



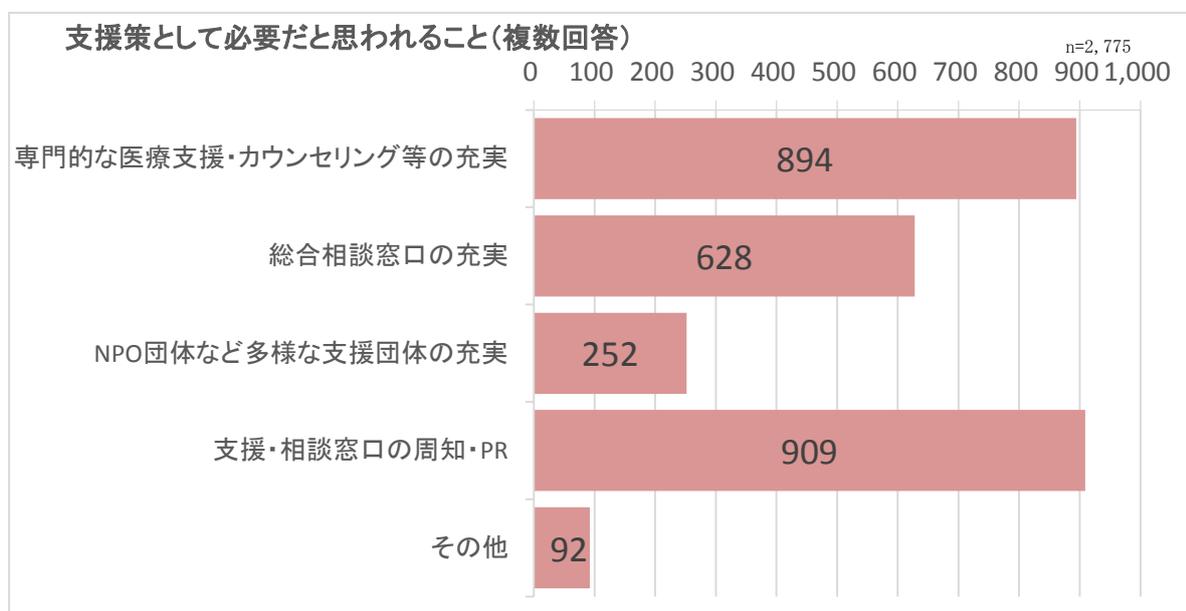
(8) 支援の状況（複数回答）

○「何の支援も受けていない」（456件）がもっとも多く、支援へのつながりの難しさを示していると考えられる。



(9) 必要な支援策（複数回答）

○「支援や相談窓口の周知」が909件、「専門的な医療支援やカウンセリングの充実」が894件と圧倒的に多い。



○自由意見から

- ・今は親が一緒だから安心だが、親がいなくなれば心配。
- ・家族はひきこもりのことを隠したいと思っている。
- ・どこに相談に行けば適切な支援が受けられるのか知りたい。
- ・相談窓口の存在を幅広くアピールすることが必要。
- ・家族の相談にのることや専門的なカウンセリングなど助言が必要。